

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392900029		
法人名	株式会社日本介護研究所		
事業所名	グループホーム長寿の郷(ゆうひ)		
所在地	愛知県刈谷市神明町4丁目723番地2		
自己評価作成日	平成28年3月8日	評価結果市町村受理日	平成29年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成28年12月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

刈谷駅近くの住宅地の中にあり、建物は民家を増改築し(9名×2ユニット)18名の方が入居されている。開設から4年目、尊厳を重視、「一人ひとりのニーズに合わせてきめ細やかな介護、心に寄り添う介護」を理念に上げ実践、ご利用者との信頼関係も築かれ様々な思いをご利用者と職員が共有でき、共に支え合いながら穏やかな毎日がある。お庭には花や野菜を育て楽しみ、ボランティア団体による歌の披露やドライブを兼ね季節折々の花など見に行くことに大変喜ばれ続けたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設当初より「利用者を生活者としてとらえ、役割感や個々の生活を大切にした『寄り添った介護』」を理念に掲げ、6年が経過している。職員はほぼ定着しており、ユニットを越えて利用者全員の現状を捉え、寄り添った介護に努め、研修等へも積極的に参加している。訪問歯科診療、訪問リハビリや訪問看護の利用、薬剤師の指導といった医療・健康面も充実しており、今年は保育園との交流場面はなかったが、地域との交流も活発である。地域祭りの刈谷万燈祭時には、ホームの庭まで子ども神輿が入ってくるので利用者は毎年楽しみにしている。8月に管理者が替わり、一層理念に添ったホームとなるよう体制作りがはじまったばかりである。利用者と職員とで身近な物を利用して作ったアイデア季節商品と笑顔に満ちたホームの構築を期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寄り添う介護、個々に合わせてきめ細やかな介護、心に寄り添う介護を理念に上げています。介護職員にはミーティングや面談、申し送りを通して実践に努めている	一人ひとりの生活を大切にする、寄り添う介護を理念に掲げ、共用空間入口に掲示している。周知にむけ、コミュニケーションのとり方等を個別に指導、実状を確認し、正しい理解へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々の受け入れをし地域に開かれたホームである。町内会への入会、地域の掃除、お祭り、敬老会、地域合同消防訓練、日常的な散歩などを通して地域の方と交流している。桜地区のボランティア団体との交流も行っている	町内会回覧板で行事を確認し、清掃や祭り等に参加している。ホーム行事も回覧板の利用で子どもや近隣住民がクリスマス会に足を運び、利用者との交流が図られている。歌手、民謡・三味線ボランティアが定期的に訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々の奉仕による歌謡ショー、民謡の会への参加を働きかけたり、町内会主催の行事に参加したり民生委員、近隣住民の方を通して地域の高齢者の方へ気軽にどなたでも立ち寄っていただけるよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2カ月毎)に開催をし、包括支援センター、自治体やご利用者様、ご家族様にグループホームでの取り組みを理解していただき、会議でも意見をサービスの向上に活かしている	市役所担当者や地域包括支援センターが交代で、又、家族や利用者代表も参加し、2か月毎に開催している。ホームの状況や医療関係事項の他、イベントや活動内容も報告している。質問には丁寧に説明、内容を議事録に記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、情報交換や指導をいただきながら質の向上に取り組んでいる	更新の届けや生保関連で市役所に出向き、運営推進会議議事録は郵送している。ホーム内で解決できない内容を相談し、指導を受けながら解決されている。会議や研修に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送り等機会あるごとに身体拘束について周知を図り、定期的に身体拘束についての内部研修を行っている。また玄関の鍵については1部鍵をしているがすぐに出れる状態になっている(防犯的観点から夜間21時以降施錠している)	職員は身体拘束の内容を理解しており、現在拘束はない。玄関の施錠は通常夜間のみだが、ホーム内が不穏状況になれば、時間限定で家族の了解のもと施錠をすることもある。新人教育でスピーチロックを説明し、都度話すことで周知に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士が注意しあい身体的、あるいは言葉の虐待が見逃されないようにしている。内出血痕や傷などのある方に対しては原因を明確にし申し送りにて職員間での情報交換に努めている。各ユニットにフロア一長を儲け介護職の相談・ストレスに絶えず乗れる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には支援しており、生活保護の方の受け入れもしている。成年後見制度を利用している。現在も後見人の弁護士事務所との情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約内容重要事項、個人情報の利用目的及び個人情報同意書について、十分に説明するよう努め、疑問等にお答えし理解いただいている。一度自宅で確認する事を進め、後日改めて契約としている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族からの苦情や意見・要望に対して速やかに対応し、職員間で周知、改善に努めている。また、重要事項説明書にも「問い合わせ苦情の窓口」として、本部に専門の部署を設け、常に話しかけて何でも言ってもらえるよう信頼関係の構築に努めている	家族の面会時や遠方の方は電話で要望や意見を聞くようにしており、運営や質の向上に反映させている。春・夏の2回、花見やボランティア訪問の行事とともに家族会を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、直接メールで、意見を送信出来る環境も整え、又、頻繁に事業所に訪れ、常に職員の意見や提案を聞く機会を設け問題の見直しや解決に努め運営の充実を図っている。	定期的な年4回会議を開催し、職員は提案や意見があればフロア長に伝え、議案として取り上げ、話し合いや検討をしている。決定事項は申し送りノートで確認、周知徹底している。庭に緑のカーテンをとの提案でへちまやゴーヤを植えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為に休暇は優先して与えており、資格の取得を給与に反映している。代表者は全ての職員の努力や勤務状況を把握するよう努め、職員から翌月の勤務希望を聞き、生活と仕事の両立ができるよう、職場環境・条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者を歴任するなどより良い事業所をめざして、職員及び現場に対する把握に努めている。その上で内・外部の研修への参加機会を設け、また職員一人ひとりに合った指導方法を検討、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療機関、市が主催する勉強会には積極的に参加し、少しでも多くの同業者の方と情報交換できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のご家庭に伺い、又、入院中の肩には病院での面談をするなど利用者様のキーパーソンを交えて、入居前面談や契約時に本人の思いや要望に耳を傾け、お1人で困っているような時は必ず声かけを行い現状等をお聞きするようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配、お困りな事をお聞きする時間を多く設けている。ご訪問時には、積極的に本人の様子を伝えるようにしている。またご家族の不安や困っている事を十分に傾聴し信頼関係を築き安心できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービスを含め、時間をとり、入居前面談や入居契約時にご本人、ご家族様がどのような支援を必要としているかを見極め入居された時は身体面・精神状況にあったサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることは見守りによる生活リハビリとの形にて、参加して頂き、一方的に何かをして差し上げるのではなく、日常生活を共にし、職員は日々入居者の皆さんから多くの知識や優しさをもらい、共に支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には本人の状況を報告し、ご本人とご家族の絆が弱まる事のないよう、本人の意思を尊重しながら一緒に考えてもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた関係やことを大切にし、お友達の訪問等も受け入れている。本人・家族の希望を聞きながら外出など、希望にそう支援に努めている。急な外出・外泊も自由に行っている。	お墓参りや行きつけの美容院は家族対応で実施している。年賀状のやりとりは職員が個々の状態に寄り添って継続している。宿泊ではないが、お正月に家に帰られる方もあり、職員と出かける喫茶店は入所後馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話が円滑にいくように見守り、関係性を把握し職員が間に入り調整し、また孤立されないよう十分配慮しながら支え合えるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	アルバムを持参する等、退居された後においても必要に応じ、本人・家族からの相談をしていただけ関係作りに努め、亡くなられた場合は葬儀等にも参列させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と事前の面談を大切にしている。一人ひとり、それぞれの方とコミュニケーションをとり、思いや考え方を把握し、本人本位に対応している	入所前から家族と本人と事業所側とが面談を重ね、生活歴や好みなどをきき、思いや意向を掴むようにしている。入所後は身振りや行動、表情から思いを汲み取って支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談、入居後の面談、相談時・契約時・また入居後において、これまでの生活環境や暮らし方など本人・家族・過去のケアマネ等関係者に聞き取りし共有・把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌等で情報を共有し一人ひとりの一日の暮らし方への思いや心身の状態の把握に努め、適切な支援が行えるよう努めてる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に介護職員も交え、より良く生活していただくケアのあり方を常に話し合い、カンファを行い、サービス提供者会議等では本人・家族・関係者と話し合い現状に沿った介護計画を作成している	支援計画は1ヶ月ごとにモニタリングをし、家族と話し意向を確認した上で変化があれば都度、それ以外は認定更新時、介護度が変わった時、家族からの要望が出たときを目処に変更作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様のバイタル等、毎日の様子を細かく観察し職員間の情報の共有に努め、気づきや工夫を話し合い実践、介護計画の充実に活かしている。バイタル表を元に看護師の検査確認を定期的うけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの周りを取り巻く状況に対応してサービスの多機能化に取り組み訪問ハビリ訪問看護など、一人ひとりを支え安心していただけるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会への参加、近隣のボランティアの方の受け入れ、町内の行事への参加や近隣の喫茶店など訪れたり、広報だよりの閲覧等、地域の一員である事を実感していただき一人ひとりが地域の中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう柔軟な対応を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定の医療機関との在宅診療契約をするのではなく、今までの、主治医との関係を大切に、かかりつけ医を決めていただくなど、医療を受けられるよう支援している。体調の変化時には、メール・携帯電話にてご家族に連絡し、相談している	もともとのかかりつけ医を家族対応で受診することを基本としている。専門医の受診や、緊急時の対応については看護師に相談し、助言を得ている。訪問歯科が来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師等と連携しながら、毎日の健康管理や適切な医療を受けられるよう支援している。バイタル表を1週間毎に看護師に検閲してもらい、異常を早く発見するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーの提供や職員が面会に行くようにしており、またできるだけ早期に退院できるよう病院関係者との情報交換に努めている。退院時には看護サマリー介護サマリーなどの提供も受け続けた介護が出来る体制をあしっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明、同意書をいただいております。重度化や終末ケアについては、入所時にリビングウイル・延命治療などの希望を含め、家族・医師・職員と情報共有し話し合い方向性を決めるよう努めている	入居時に終末期について家族との話し合いをし、当面の方針を決めている。また医師から終末が近いと伝えられたら家族と再度話し合い、事業所でできることできないことを伝え意向を確認。それとともに看護師が職員へ終末期の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急処置の心臓マッサージの訓練を消防署の指導の下に受け、初期対応について話し合う機会を設け実践力を付けるよう定期的に勉強会を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て防災訓練を実施しており、地域の民生委員の協力を得ながら今年度も地域との合同防災訓練が実施できている	地域の防災訓練に利用者と職員が参加、事業所単体ではできない煙トンネル体験などを行っている。事業所でも火災訓練を計画している。	実際に即した訓練が行われていない。地域との連携協力体制を築いてもらいたい。備蓄をわかりやすい場所に確保することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の人生、生活観を大切に、尊厳を大変にし、気持ちを汲み取り、入浴支援や排泄支援ではプライバシーに配慮した介助と人格を尊重した言葉かけをするようにしている	利用者が不公平感を抱かないよう、家族や知人が訪問した際には別室を用意している。 新任職員には言葉遣い、言葉の意味、傾聴の大切さを管理者が指導しながら、全員で利用者を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切に、少人数のケアを活かし本人の意見を傾聴し、個々に合わせた生活スタイルが実現できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の要望を大切に、どのように過ごしていただくか希望に沿いつつも体調を考慮の上希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の着替え、整髪、身だしなみは生活にメリハリをつけるものであり実施している。毎日更衣時に本人の意見を聞きながら洋服を選んでいただくよう支援しており。訪問理美容により2ヶ月おきに散髪も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の用意から参加していただくことにより、食事が楽しみになるよう利用者と職員と一緒にやっている。一人ひとりのペースに合わせて楽しく行えるよう配慮している	配達食材を利用してはいるが、本部が有機栽培の畑を持っておりそこからの収穫物も食卓に並ぶ。利用者に芋の皮むきなどできることはやってもらっている。ケーキ作りや喫茶の利用なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に添い食事を作っている。食事量や水分量の確保、栄養バランスの配慮、糖尿病の方の食事については栄養士より指導を受け適切な支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後行なっている。口腔内の清潔保持、疾病防止等から、毎食後一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から毎日の排泄状態を把握し、その方に合った排泄支援に努めている。排泄間隔を確認し個々のタイミングで誘導、できる限りトイレにて排泄していただけるよう声掛け、失敗やオムツ等の使用回数を減らし自立支援をしている	利用者がなるべくおむつをしなくてすむよう、チェック表を利用しこまめな声掛けをトイレ誘導をすることで、おむつ利用だった人がリハパンからパットへ回復したこともある。夜間も睡眠優先ではあるがトイレ利用をしてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄表から排便状況を把握し、個々に応じた予防・支援に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の習慣や好みに対応して入浴時間や洗体方等できる限り本人の希望にそい入浴支援を行っている。ぬるま湯が好きな方は午後(後半の)入浴を心がけている	最低週に2回以上の入浴を決め、時間や温度に気を配りながら支援している。ボディタオルや手のひらを使った洗体を軍手利用にすることで落ちにくかった汚れがすっきりした例もある。ゆず湯など変わり湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活でのストレス軽減や夜間の安眠につなげるためその時々状況に応じ、仮眠時間を設け休息できるよう支援している。夜間の安眠確保のため年間を通してを実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	{かかりつけ薬局}制度をを利用している。使用している薬の目的や副作用を把握・理解するよう薬説明表をファイルのページに綴じている。薬剤師による薬の説明会も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴に合わせ、張り合いがある生活を送って頂けるようにできる限り本人の持っている力を活かせるよう留意し、ホームでの役割や楽しみごとなどが気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との会話を参考に、日々々の会話から本人の希望等をお聞きしながら家族の協力を得て出かけられるよう支援している	天気にあわせ事業所の近所を職員と一対一で散歩している。桜の花見や地域行事には出かけている。家族が外食や墓参りにつれて出かけることも多い。ほぼ毎日事業所近くのお地藏様にお参りする利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活上では、紛失、物忘れにのトラブル防止の為、お金の所持は基本的には控えていただいている。一人ひとりの希望や力に応じ、家族の意見も考慮しながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていられる方も見え、家族の状況・関係等情報を職員間で共有し、個々に合わせた対応をするよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子での移動、歩行移動を妨げない配慮を心がけ、季節を感じていただけるよう努めている。テーブルの上にはお花を飾ったりしている。皆で作った作品を壁に飾りかわが進むように心掛けている。	利用者がみんなで作った貼り絵やクリスマスの飾り、行事の写真などがリビングの壁に貼られている。夏には日差しを避けるためにゴーヤカーテンを育てるなど、居心地よい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間などの共有空間は一人ひとりの尊厳を重視しながら、テーブル席の位置、又、庭を觀賞できる座席をご用意したり、または体調に合わせて動作しやすいよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願ひし、思いでの品をお持ちいただいたりしている、居室内は毎日居心地良く過ごせるよう、清掃し、換気・清潔感・安全等に配慮し職員は定期的な巡回だけではなく状況に合わせて訪室を多くするなど努めている。	防火防災、熱効率の観点から二重窓にして、原則カーテンをかけないのだが、希望があればカーテンをかけられる。ベッドや筆筒、テレビ、書道作品、家族の写真などそれぞれが思い思いの品を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで作られている。建物は2重サッシで断熱防音に優れた作りになっている。トイレも居間近くに併設しており、利用者様の同行が常に確認でき自立した生活下で散る配置になっている		

## 目標達成計画

作成日: 平成 29年 1 月10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		刈谷市はトヨタの城下町として自動車産業関連の大会社、下請け会社等おおくの企業があり、好景気もあり人手不足が常時あります。介護に携わる人も不足し、新規採用が非常に難しい状態で、広告を何回も出しても中々人が集まらず、職安に毎回求人をしておりますが、介護職員の採用が出来ない状態です	介護職員の新規採用	派遣社員の活用、人材紹介会社を投資手の採用など、あらゆる手段を活用して採用する。また、より魅力のある職場にする努力をする。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月